

國學院大學學術情報リポジトリ

2016年度のトピック5 出張報告

研究事業「『國學院大學

国学研究プラットフォーム』の展開」による史料調査

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 齋藤, 公太 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001909

出張報告

研究事業『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開』による史料調査

2016年度の研究事業『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—』では、明治期国学・神道関係人物に関わる史料収集の一環として、2017年2月6日から8日にかけての3日間、滋賀大学経済学部附属史料館（滋賀県彦根市）にて調査を行った。今回は同史料館が所蔵する国学者・西川吉輔に関する文書群、「西川吉輔家文書」を調査の対象とし、西川とその周辺の国学者・宗教者にまつわる史料を閲覧・撮影した。参加したのは遠藤潤、齋藤公太、芹口真結子の3名である。

西川は幕末に平田派の政治活動に加わり、明治初年には長崎で大教宣布運動を行い、その後は郷里の滋賀県で官幣大社・日吉神社の大宮司を務め、地域の宗教行政に関わった重要人物である。日本文化研究所では1986年にも「西川吉輔文書」の調査を行っているが、そこで対象となったのは膨大な史料の一部に限られる。今回の出張では西川に関する史料のより広範な調査を行った。

以下、調査の内容について説明する。まず2月6日に遠藤は、津和野の葬儀・霊祭関係文献の写「葬儀要録」（藩政9）、大教院が教導職に対して講義内容について指示した「大教院分神道教導職取締江通達」（宗教6）、西川吉輔が滋賀県令に出した「神社之儀ニ付歎願十条」（宗教29）などに関して、内容を調査するとともに、撮影した。西川の活動を知る上で有益であるとともに、当時の教導職の活動内容や葬儀式制定に関わる具体相を知ることができる史料群である。

齋藤は、西川が書写したキリスト教批判書

である「耶蘇教関係 新教法論」（宗教131）、「天教問答書写」（宗教145）、長崎での大教宣布運動にまつわる「管内諸神社祭礼之節出張講義之件神代氏江渡す御下問奉答控」（宗教3）、「教導大綱試」（宗教122）、「教導開講記」（宗教132）、「宣教講義体裁 吉輔記」（宗教156）、「西川吉輔自筆六日晦大祓講義」（宗教158）、「大祓講義西川吉輔自筆」（宗教159）、「宣教雜記」（宗教266）、日吉神社の少宮司であった田中知邦の「神道教義ニ付件々伺」（宗教24）などを、適宜ノートを取りつつ撮影した。これらは長崎県における大教宣布運動や、滋賀県の神社行政、そしてそこで西川の役割を知る上で有益な史料である。

芹口は、教部省からの布告を写した「教導職心得職之儀ニ付御断書」（宗教8）、「神道諸宗合併布教之儀ニ付以後御指留之旨布告之控」（宗教23）の2冊と、明治3（1870）年時の長崎県における宣教使の活動を記録した「宣教関係竹城備志」（宗教269）、「奉使長崎記事」（宗教310）の2冊、そして、明治5年の長崎県における宣教使および教導職の活動について書き留めた「奉使長崎続記」（宗教311）、「壬申第一号記事長崎宣教記事」（宗教312）、「壬申第二号長崎宣教記事」（宗教313）の3冊を、適宜ノートを取りながら撮影した。以上からは、明治初期の大教宣布運動の内実と、西川をはじめとする宣教使・教導職の諸活動をうかがい知ることができた。

2月7日の調査は次の通りである。遠藤は、篤胤の吉田家批判書の写ならびに篤胤の毀誉の記事の抜粋である「篤胤ひとりごと写」（宗

教126)、教導の内容や関係書類などをまとめた「神祇関係雑記綴」(宗教143)などの内容調査を行い、明治5年5月の教導記録「教導開講記」(宗教132)、「神祇関係書類綴」(宗教141)などについては、内容調査とともに撮影を行った。これらは、やはり、当時の教導職の活動内容について具体的に知ることができる史料群である。

齋藤は前日に引き続き、「西川吉輔宣教要記甲」(宗教325)、「同・乙」(宗教326)など大教宣布運動関係の資料、そして長崎滞在中の西川が記した明治5年の日記である「長崎在勤壬申第五号日記」(宗教316)、「壬申第六号深江記事」(宗教317)、「壬申第七号深江記事」(宗教318)を撮影した。さらに齋藤は「西川吉輔履歴取調書」(家5)、「吉輔遺事御尋問ニ付取纏申上書」(家7)、「西川吉輔伝記」(家9)といった西川の履歴書・伝記類も撮影した。これらはいずれ西川の人物情報をとりまとめ、公開する際、直接的に役立つものである。

芹口は、まず、明治8年から同9年にかけての滋賀県での活動を西川が記した「三橋日記」(宗教253)、年不詳だが宣教使の勤務内容に関する取り決めなどをまとめた「宣教雑記」(宗教294)を撮影した。続いて、長崎県での宣教使・教導職による活動について明治5年時に西川が書き留めた「壬申第三号長崎宣教記事」(宗教314)、「壬申第四号長崎教導記事」(宗教315)、「第八号深江日記」(宗教319)と、西川が長崎県を離れる明治6年2月時のできごとをまとめた「第九号崎港退帆記」(宗教320)などを、適宜ノートを取りながら撮影した。明治5年時の諸日記には、浦上キリシタンへの対応や、教部省開省時における人事異動に関する記録が掲載されているほか、仏教教導職の説教をめぐる手続きも記されており、当該期における宣教使ないし教導職の活動実態が読み取れ、有益な史料である。

最終日である2月8日の調査は以下の通りである。遠藤は、「久保宣教中博士奉勅撰述鎮魂祭由縁・八神略伝」(宗教167)などの神葬祭・霊祭関係の文献、「近江国多賀神社教会講社第二分社高知県阿波国神道事務分局協同仮締約書」(宗教172)、「多賀教会講社規則改良協議会」(宗教177)など多賀神社の教会講社関係文献や「近江国犬上郡多賀神社之儀奉建言書」(宗教175)など多賀神社の昇格関係文献について内容調査や撮影を行った。前日までに撮影を開始していた神葬祭・霊祭関係に加え、教会・講社などの制度的側面について知ることができる史料である。

齋藤は、西川最晩年の明治13年に記された日記「百石志誌 第拾四号」(宗教264)のほか、足利三代木像梟首事件(文久3年<1863>)の記録である「足利三将木造梟首記」(学芸93)、古川躬行の自筆稿と思われる「神祇随筆」(学芸101)、「久保宣教中博士奉勅撰述鎮魂祭由縁・八神略伝」、気吹舎門人の名簿である「平田門人帳」(学芸95)、「西川吉輔歎願口上之写并書状綴」などを撮影した。以上は西川のみならず、その周辺にいた国学者たちの動向をうかがい知る上で有用な史料である。

芹口は、明治10年～13年にかけて作成された、「壽無量日記 第八号」(宗教258)、「壽無量日記 第九号」(宗教259)、「壽無量日記 第一〇号」(宗教260)、「坂津記事」(宗教261)、「乙卯日誌 第拾貳号之上」(宗教262)、「百石日表 第拾参号」(宗教263)の諸日記などを撮影した。これらからは、西川が関わった滋賀県の神社行政をめぐる記述などが確認できる。また、同県下の僧侶の活動や、小教院支局の開設、県庁との折衝についても見ることができ、以上より、明治10年代における滋賀県域の宗教者・国学者の諸活動を跡付けることが可能となる。

(齋藤公太)